

改善方策実施計画書

担当部局： 環境創造学部

責任者：環境創造学部長

幹事： 環境創造学部事務室

2011年6月27日

認証評価指摘事項	「女子の入学比率を高める」および「中国以外の地域からの留学生の増加をはかる」という目標は達成されていない。					
点検・評価問題点	本学部は他学部に比して相対的に女子学生の入学比率は高い。しかし、初年度に比して低下気味である。					
改善方策	4-25-3(新規)学部の特性を生かして、女子高訪問。指定校拡大で対処する。中国以外の地域からの留学生の増加をはかる目標は、内外研修の活用、環境創造フォーラムの運用の中で、国際交流の活発化を追求する。					
計画	前期		中期		後期	
	2010 年度	2011 年度	2012 年度	2013 年度	2014 年度	2015 年度
2010 年度実施計画			達成時期	2010 年度取り組み結果		
女子高の指定校を検討した。				A 完全に達成 ○ B 達成半ば C 未達成		
				(B または C の理由)		
2011 年度実施計画			達成時期	2011 年度取り組み結果		
フォーラムの活性化を実行する。				A 完全に達成 ○ B 達成半ば C 未達成		
				(B または C の理由) フォーラムを実行し、地域との連携の強化、学生の学習意欲の改善を目指したが、即効を得られていない。		
2012 年度実施計画			達成時期	2012 年度取り組み結果		
改善策の提示と実施				A 完全に達成 ○ B 達成半ば C 未達成		
				(B または C の理由) 女子にも受け入れやすいようなキャリア教育の充実を図った。		
2013 年度実施計画			達成時期	2013 年度取り組み結果		
改善策の提示と実施				A 完全に達成 B 達成半ば C 未達成		
				(B または C の理由)		
2014 年度実施計画			達成時期	2014 年度取り組み結果		
				A 完全に達成 B 達成半ば C 未達成		
				(B または C の理由)		
2015 年度実施計画			達成時期	2015 年度取り組み結果		
				A 完全に達成 B 達成半ば C 未達成		
				(B または C の理由)		

改善方策経過報告書

認証評価指摘事項	「女子の入学比率を高める」および「中国以外の地域からの留学生の増加をはかる」という目標は達成されていない。
点検・評価問題点	本学部は他学部に比して相対的に女子学生の入学比率は高い。しかし、初年度に比して低下気味である。
改善方策	4-25-3(新規)学部の特性を生かして、女子高訪問。指定校拡大で対処する。中国以外の地域からの留学生の増加をはかる目標は、内外研修の活用、環境創造フォーラムの運用の中で、国際交流の活発化を追求する。

(2011 年 3 月 31 日現在)

【現状の説明】

女子高訪問。指定校拡大で対処した。

所見	
----	--

(2012 年 3 月 31 日現在)

【現状の説明】

指定校拡大で対処したが、中国以外の地域からの留学生の増加をはかる目標は達成されていない。方策を模索中。

2011 年度の女子入学は 49 名、入学比率は 26%である。中国以外の留学生数は、韓国 1 名(現在は退学)である。

2011 年度には、「まちづくり市民事業が描く地域社会」のテーマで、学部としての研究活動の推進、学生の学習意欲の昂進、地域との連携の強化を図った。

所見	環境創造学部の地域との「まちづくり」というテーマの研究・教育活動には目覚ましい成果を生んでいます。さらに多言語による広報活動などを通し、この成果がより広範囲に知られるよう努力されることが望まれます。
----	---

(2013 年 3 月 31 日現在)

【現状の説明】

今までの努力もあり、女子の入学比率は高まりつつある(2012 年度 4 年次 21.3% 3 年次 23.8% 2 年次 25.7% 1 年次 26.6%)。中国以外の地域からの留学生の受入については今後の検討課題としたい。また新カリキュラムでは「キャリア形成と人生」などの女子学生や留学生にも興味深い授業を取り入れた。

所見	女子学生の入学比率が上昇したことは大いに評価できます。また留学生や女子学生にとって魅力的な科目の設置は、長期的には効果的な方策ですので、今後の入学者数の推移に注目したいところです。
----	--

改善方策実施計画書

担当部局：環境創造学部

責任者：環境創造学部長

幹事：環境創造学部事務室

2011年6月27日

認証評価指摘事項	【総評】社会人入試を実施しているが、入学実績はほとんどない。					
点検・評価問題点	学部性格を生かして、社会人との交流を行っているが、社会人入試の結果と繋がっていない。					
改善方策	4-25-4(新規) 引き続き社会人交流を図る講座やフォーラムを生かし、社会人入試の増加を追求する。					
計画	前期		中期		後期	
	2010 年度	2011 年度	2012 年度	2013 年度	2014 年度	2015 年度
						
2010 年度実施計画			達成時期	2010 年度取り組み結果		
板橋区と連携した環境創造講座を実施した。			2011. 03	☒ A 完全に達成	☒ B 達成半ば	☐ C 未達成
				(B または C の理由) 板橋区と連携した環境創造講座を実施した。		
2011 年度実施計画			達成時期			
入試対策委員会で前途を検討する。				☒ A 完全に達成	☒ B 達成半ば	☐ C 未達成
				(B または C の理由) 環境創造フォーラムを活性化したが、即効をえていない。現状を把握し、次善策を考えたい。		
2012 年度実施計画			達成時期	2012 年度取り組み結果		
改善策を提示し、実施を計画する。				☒ A 完全に達成	☒ B 達成半ば	☐ C 未達成
				(B または C の理由) 5 時限目より後に履修できる授業がないため		
2013 年度実施計画			達成時期	2013 年度取り組み結果		
積極的な改善策を提示し、広報に力を入れた実施を計画する。				☒ A 完全に達成	☒ B 達成半ば	☐ C 未達成
				(B または C の理由)		
2014 年度実施計画			達成時期	2014 年度取り組み結果		
				☒ A 完全に達成	☒ B 達成半ば	☐ C 未達成
				(B または C の理由)		
2015 年度実施計画			達成時期	2015 年度取り組み結果		
				☒ A 完全に達成	☒ B 達成半ば	☐ C 未達成
				(B または C の理由)		

改善方策経過報告書

認証評価指摘事項	【総評】社会人入試を実施しているが、入学実績はほとんどない。
点検・評価問題点	学部性格を生かして、社会人との交流を行っているが、社会人入試の結果と繋がっていない。
改善方策	4-25-4(新規) 引き続き社会人交流を図る講座やフォーラムを生かし、社会人入試お増加を追求する。

(2011 年 3 月 31 日現在)

【現状の説明】

学部、学生の社会的活動を強化してきたが、特にそれが社会人入試の増加とは繋がっていない。学部性格上、社会人との接点を得やすいので、社会人入試の増加に連なる方途を検討する。

所見	
----	--

(2012 年 3 月 31 日現在)

【現状の説明】

環境創造フォーラムを開催し、社会人との接点得やすいのだが、良い結果をもたらしていない。今後も社会人入試の増加に連なる方途を検討する。

2011 年度の社会人入学者数は 0 名である。

所見	学部の特徴を生かした活動、例えばまちづくりを推進している公共機関との連携、また CS 事業を進めている企業などとの連携が望まれます。
----	--

(2013 年 3 月 31 日現在)

【現状の説明】

環境創造フォーラムを開催し、社会人との接点得やすい状況ではあるが、良い結果をもたらしていない。今後も社会人入試の増加に連なる方途を検討する。

2012 年度の社会人入学者数は 0 名である。

所見	環境創造学部は一般社会との接点の非常に多い学部であり、今後も学部の持つ特色を活かし、様々な公的機関や企業（特に CS 事業を推進しているところ）との連携を通じ、社会人への情宣活動を続けることが望まれます。
----	--

改善方策実施計画書

担当部局：環境創造学部

責任者：環境創造学部長

幹事：環境創造学部事務室

2011年6月17日

認証評価指摘事項	【総評】退学者および除籍者が少なくないので、1, 2 年次生に対する学習指導・生活指導の徹底など、退学者を減らすための一層の努力が求められる。					
点検・評価問題点	最近、退学者が漸増しているので、1, 2 年次生に対する学習指導・生活指導の徹底など、退学者を減らすための一層の努力が求められる。					
改善方策	4-27-3(新規) 1年次の入門ゼミ、2年次からの専門ゼミを必修としているので学習指導・生活指導の徹底を図る。					
計画	前期		中期		後期	
	2010 年度	2011 年度	2012 年度	2013 年度	2014 年度	2015 年度
2010 年度実施計画		達成時期	2010 年度取り組み結果			
ゼミ担当教員による学習指導・生活指導を行っている。			A 完全に達成	○	B 達成半ば	C 未達成
			(B または C の理由) 退学者が減る効果を確認できない。			
2011 年度実施計画		達成時期	2011 年度取り組み結果			
引き続き出席・成績不良者に対し徹底した学習指導・生活指導を行い、退学者の漸増を阻止し、減少する効果を得よう努める。			A 完全に達成	○	B 達成半ば	C 未達成
			(B または C の理由) 対策をとっているが、即効を得ていない。引き続き原因を考え、対策を継続する。			
2012 年度実施計画		達成時期	2012 年度取り組み結果			
改善策を提示し、実施を計画する。			A 完全に達成	○	B 達成半ば	C 未達成
			(B または C の理由) 経済的理由での退学者が多いと思われるため、履修の手引きの改訂を行い、奨学金の借り方や授業料減免について詳細な説明を加えた。			
2013 年度実施計画		達成時期	2013 年度取り組み結果			
履修の手引きやガイダンスで学費減免制度・奨学金制度の説明を細かく指導する。 学生生活相談委員会が改善策を検討する。			A 完全に達成		B 達成半ば	C 未達成
			(B または C の理由)			
2014 年度実施計画		達成時期	2014 年度取り組み結果			
			A 完全に達成		B 達成半ば	C 未達成
			(B または C の理由)			
2015 年度実施計画		達成時期	2015 年度取り組み結果			
			A 完全に達成		B 達成半ば	C 未達成
			(B または C の理由)			

改善方策経過報告書

認証評価指摘事項	【総評】退学者および除籍者が少なくないので、1, 2 年次生に対する学習指導・生活指導の徹底など、退学者を減らすための一層の努力が求められる。
点検・評価問題点	最近、退学者が漸増しているので、1, 2 年次生に対する学習指導・生活指導の徹底など、退学者を減らすための一層の努力が求められる。
改善方策	4-27-3(新規) 1 年次の入門ゼミ、2 年次からの専門ゼミを必修としているので学習指導・生活指導の徹底を図る。

(2011 年 3 月 31 日現在)

【現状の説明】

退学率は 4 % と高止まり、漸増傾向が続いている。原因を検討し、とりあえず出席・成績不良者に対し徹底した学習指導・生活指導を行い、退学者の漸増を阻止するよう努力している。

所見	
----	--

(2012 年 3 月 31 日現在)

【現状の説明】

出席・成績不良者に対し徹底した学習指導・生活指導を行い、退学者の漸増を阻止する努力はなされているが、原因は多様である。引続き対応を検討していく。

2011 年度の退学者数は 26 名(内除籍者数 9 名)である。

所見	「出席・成績不良者に対し徹底した学習指導・生活指導」という点は評価できます。導入教育を担当している教員間または事務方との情報共有という面からも努力することが求められます。
----	---

(2013 年 3 月 31 日現在)

【現状の説明】

まず英語の授業を通して、出席不良者を把握し、事務方が学生に連絡し、担当ゼミ教員とも連携して対応している。またゼミ教員が各学生の問題についてしばしば事務方とも相談し、悩みを抱えている学生に個別対応し、それでも無理な場合は、学科主任または教務委員長が親子面談などを行っている。

所見	入門ゼミを担当する専任教員が、英語の授業の担当教員および事務方と連携をし、学生の学習状況、出席状況などの情報を共有できる状態を作ることが望まれます。この点で、環境創造学部への取り組みは大変評価できます。
----	---